拾五編

繪猫

百人一首

さいこんきたん

春水補綴

服部貞画圖

へ13
3086
8

特
へ13
3086
8

西國奇談

十五編 上

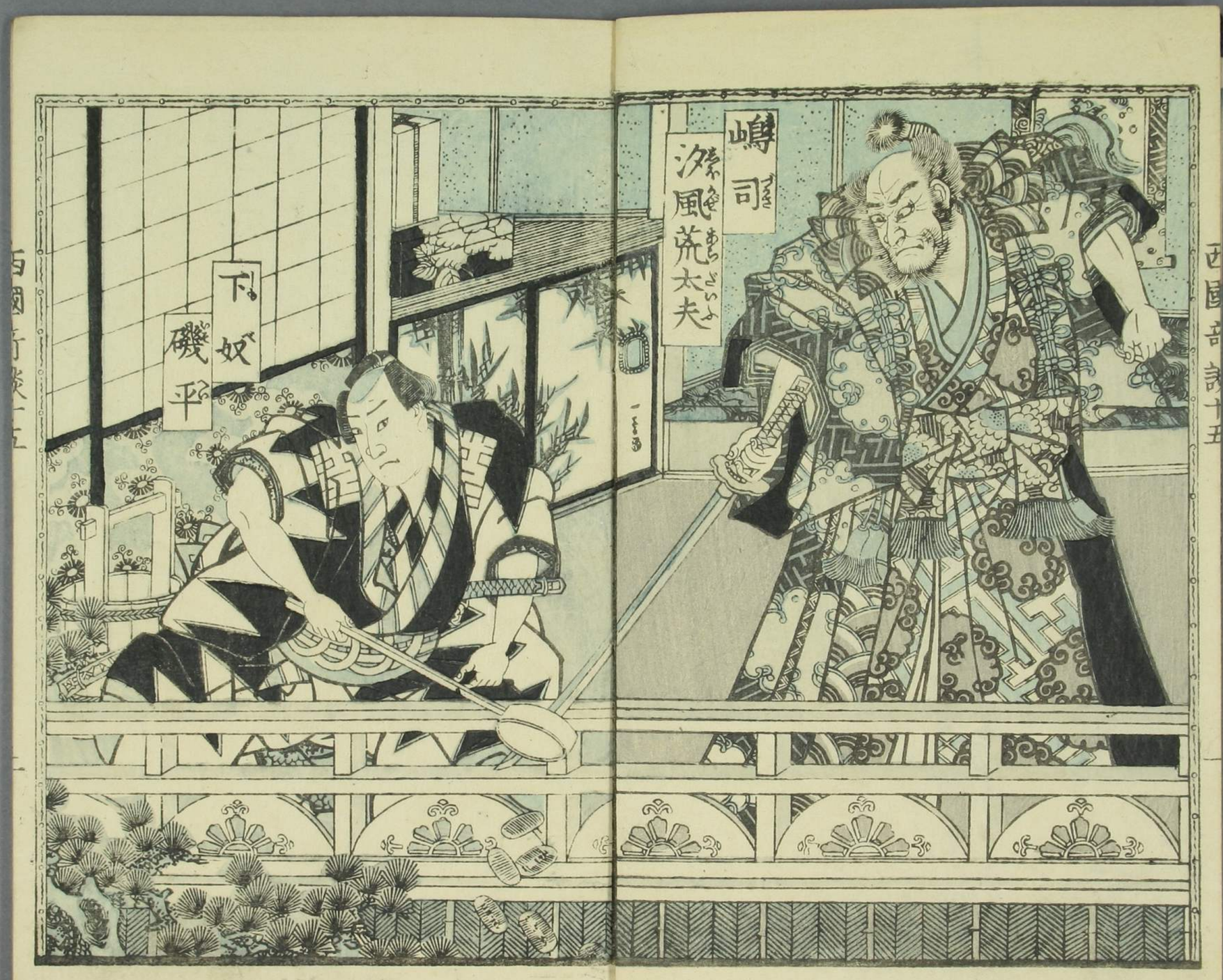
之巻

為永春水作歌川國貞画

「善進めば一惡退く。實ふ陰徳ふ陽報あるべき思ひ[illegible]も浮世の凡情。慾といふ字ふ惑はされ〳〵覚ずも罪と作てもあり。這ハ是眼耳鼻舌身の五ッふ觸て起るところの。那貪嗔痴の三毒病なり。是を治するの良藥とて。儒家ふ經典。佛家の方便咸能書ふ詐りあ〳〵ひど呑者口ふ甘か〳〵ひど醒るふかなれ无明の生醉。ところと作者ガ七加減とまゝも程ふ[illegible]ねど。甘い言葉の假名草紙。所謂神祇釋教ふ。慾もいろ〳〵加味されど。不良の姦賊不貞の淫婦。一度已ガ意を得ーも終ふ天網を免もぬ。その理を示すものハ是此西國奇談ふあん

文久三癸亥孟春

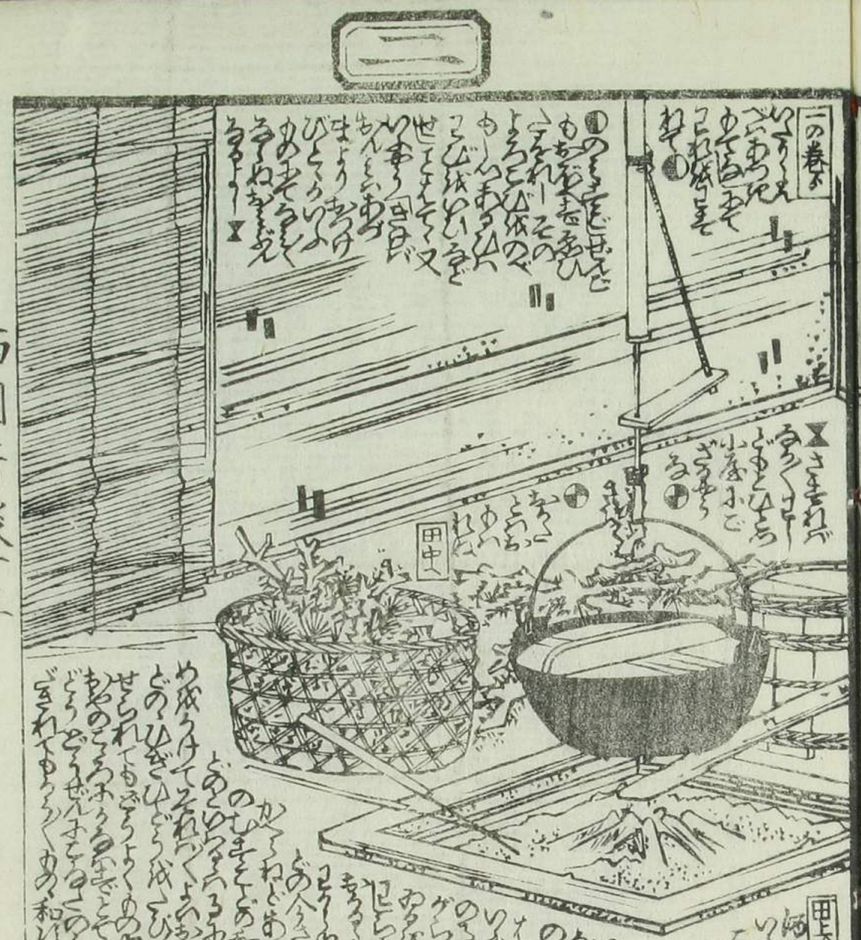
為永春水誌


嶋司
汐風荒太夫
下奴
磯平

東亀次風和次郎
奇遇の浪子
荒磯の笘家

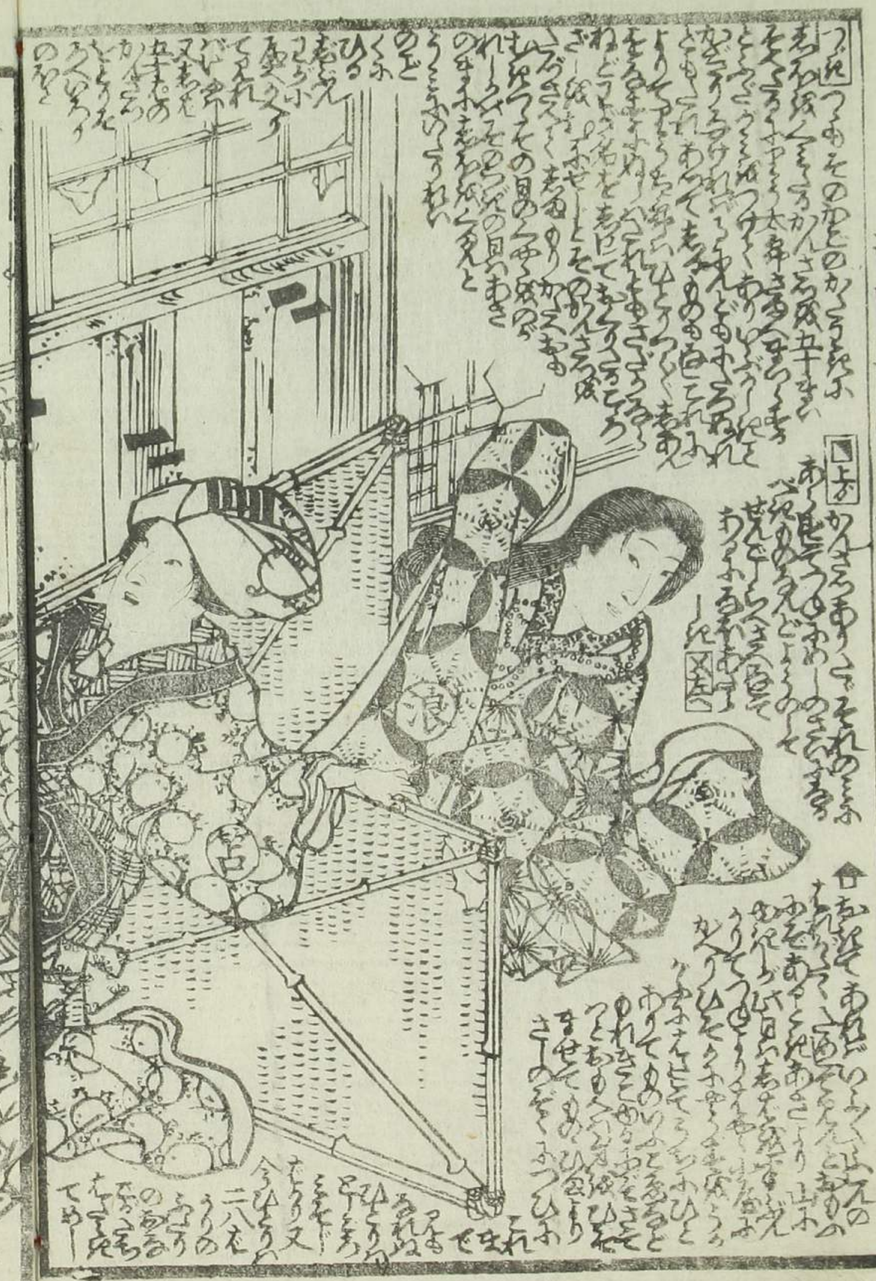
磯
龍

龍


二の巻

龍

宮
浪
龍



龍
宮
浪

春水補綴

國貞画

○此人物の支次の巻の本文に委し

淨書 青洲

西國奇談

春水補綴

國貞画

十五編 までの赴八前巻の末に[illegible]

[illegible]そその主を害せ和次郎八の仇と生て五ひに[illegible]

荒ち夫非を悔て[illegible]ふ往事を信るふりして圓山の娼妓韓夜叉[illegible]

これを根引して後郷と呼更側妾とせ[illegible]荒太夫[illegible]通せんとて[illegible]

悪計をめぐらせ話終て善悪判然として矢嶋の一殿小結局ふりくる

十七編 八阿綾阿竜の許ふいろそ母子再會の支とり[illegible]又宗重を

[illegible]んとかの尋し処の妖術の術ふ[illegible]鎖ふ種々の事を[illegible]忠臣を退け佞臣を

奉け家政を阿竜ゞ隨意ふそ[illegible]這八十八編[illegible]

根源實紫新刻梗畧

作者 柳亭種彦画工同前

十五編 統紫ふる宛人の買し宝笛香炉偷く宣孝ふ托す野洲児詛然さそ紫

式部寃と受 十六編 式神壽祖秧手子等が隠謀を露し御彦自裁て式

が汚名入主雪まを黒白判然兇悪皆尋 [illegible] 少將が貞節惟規北国

[illegible]死て[illegible]蘊る 十七編 大貳三位[illegible]宣孝病死花山法皇の門傳大[illegible]

此編て入主備ゞ式部源氏物語を作ゞ上東門院ふ奉公 十八編 [illegible]

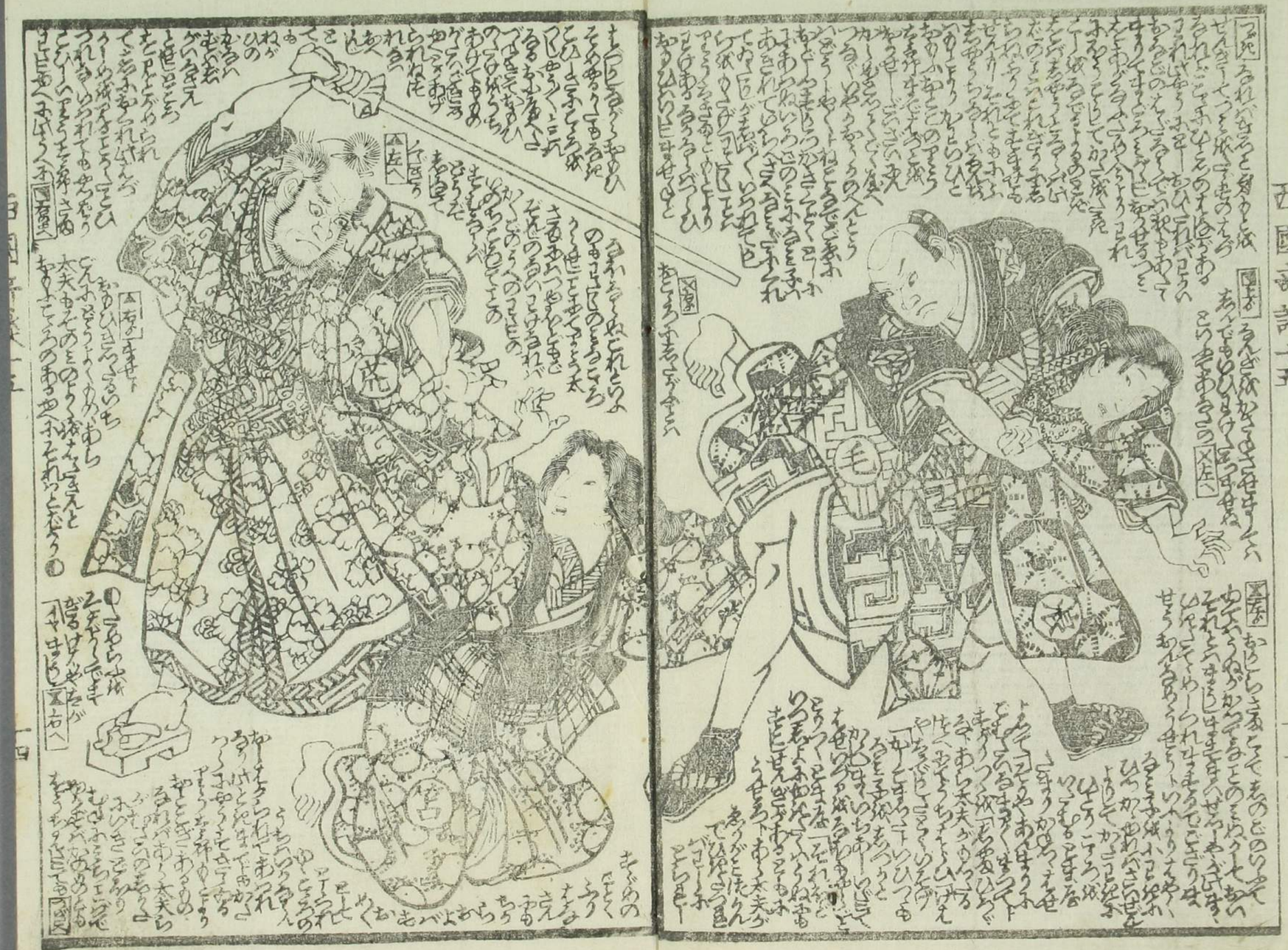
西國奇談十五編

國貞画

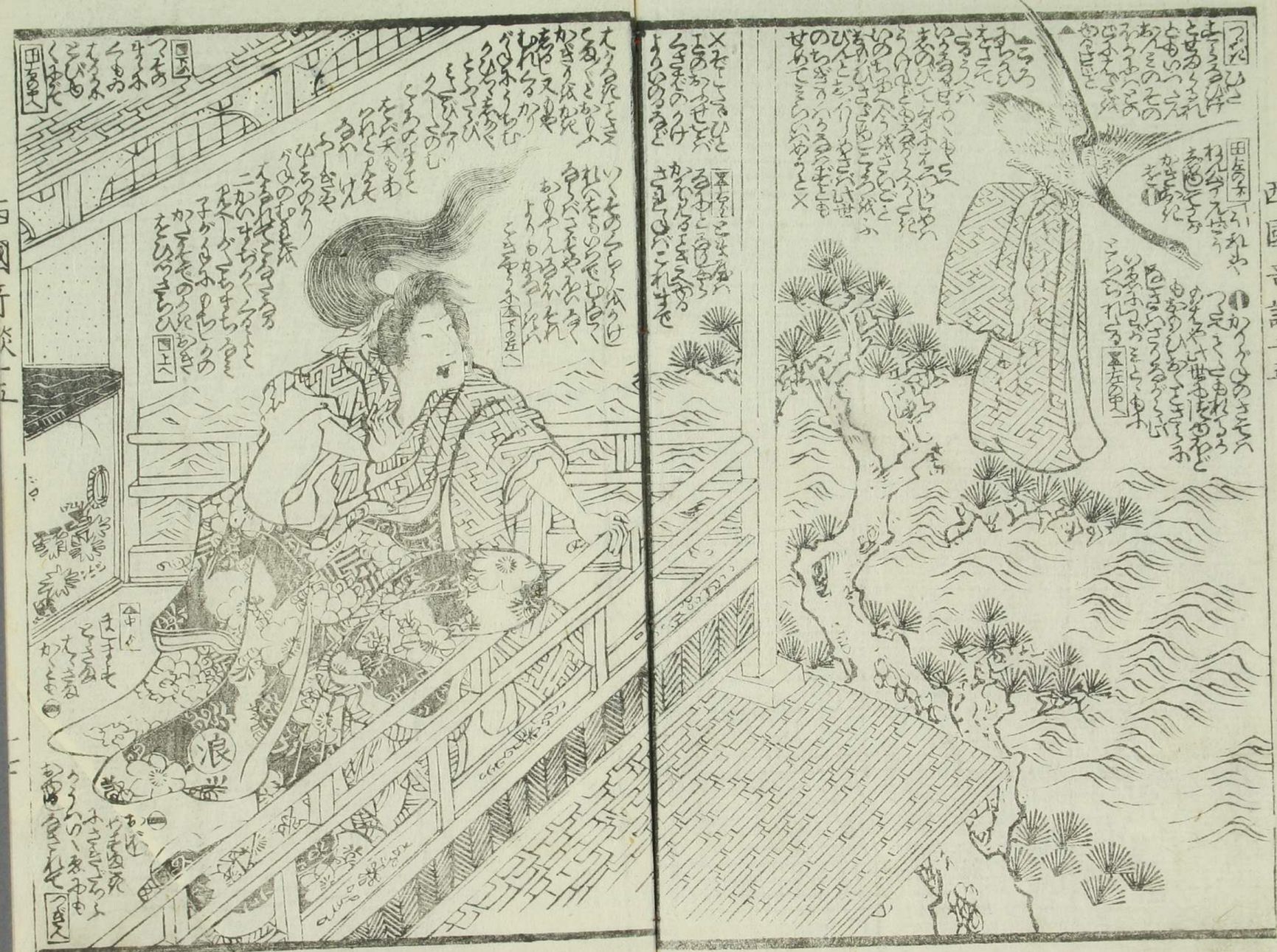
下

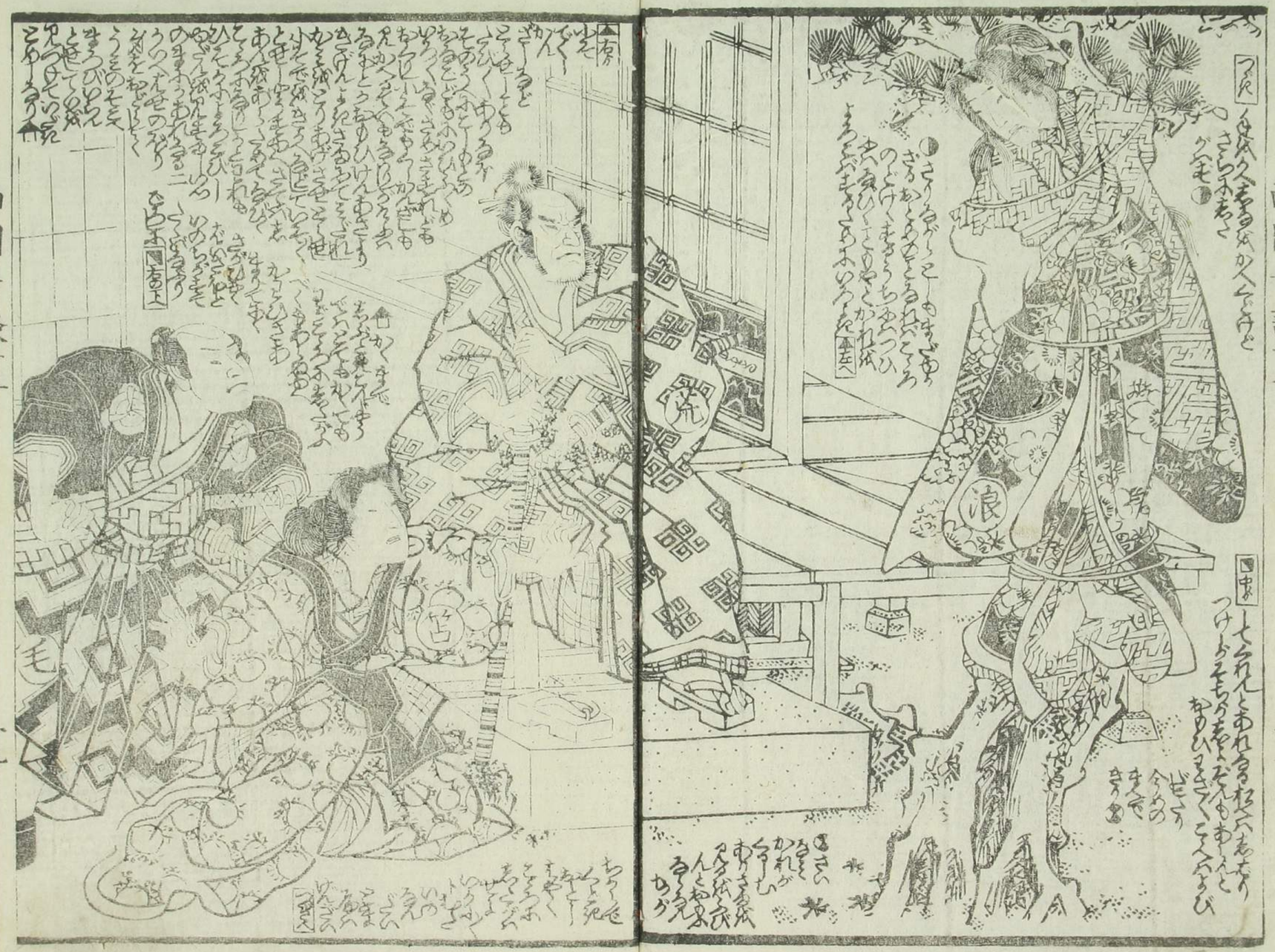
きんぶ兼ぶ吉ふ豆屋ん
作はまの紀
素多仙
ふ月ま馬
春雪亭梓
内人 京屋

三



龍


浪光



文久三亥年新鐫目録

根源實紫 十六編 十七編 十八編 柳亭種彦作 一壽齋國貞画

娘庭訓金鶏 五編 同 大尾同 作 画

あらみ琴今聲美人錄 十七編 十八編 十九編 山東京山作 柳亭種彦作 歌川國貞画 歌川國芳画

春色墨田川 初編 五編 迄 當年出板 柳亭種彦作 歌川國貞画

新增補西國奇談 十五編 十六編 十七編 爲永春水作 歌川國貞画

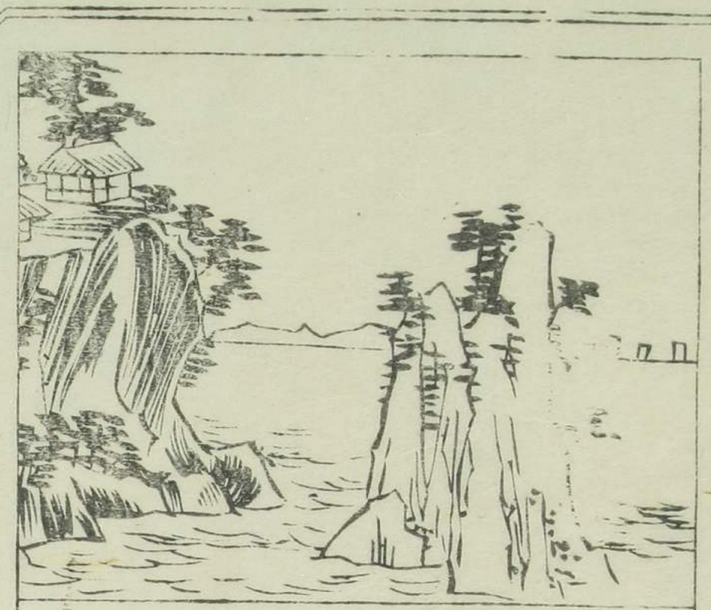
地本繪草紙團扇問屋 芝神明前三嶋町 佐野屋喜兵衛板

彩ん

寫永春水補綴

竹鶴竹市画

十六編上



新增補西国奇談春睡月

十六編上

種のもの品玉ハ。法ゝ名をやと言ふもの紙。根ゝもものと支に枝葉を添一年々歳々編数茂まゞ。早晩も常盤ゞ珍らしき。下花咲ヤん手段もなく法ゝく伸る桐夫さ五目にもゝうとゆゞ。節れ多く見所なゝど。猶葉ゆハぬ看官の高評の斧を賜ハまバ。法ゝ埋木ゝ有り果ゞ。よゝ詠めいあゝ枯木も山の賑ハひゆ花ものを策子をきゝ木に。又此春ゝちゝ先ゝハ。耶西国の物語りにもゝ

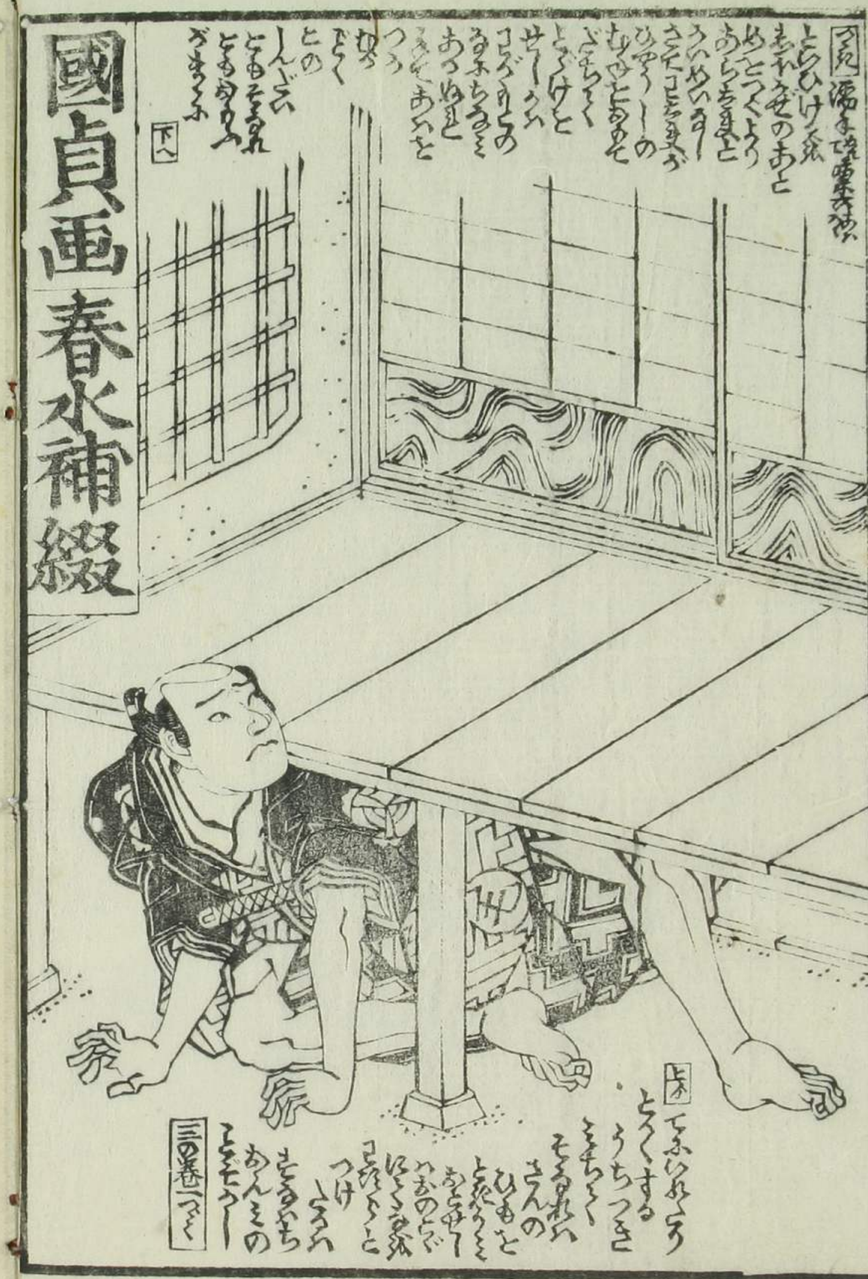
干時文久三稔
癸亥春睡月

爲永春水記

阿竜
赤松妖齊

木邑龍太郎

水
這処より下へ三丁の通を荒太夫が普請に仕せ候



西國

咄談

春水補綴

國貞画

根源實紫折利柳

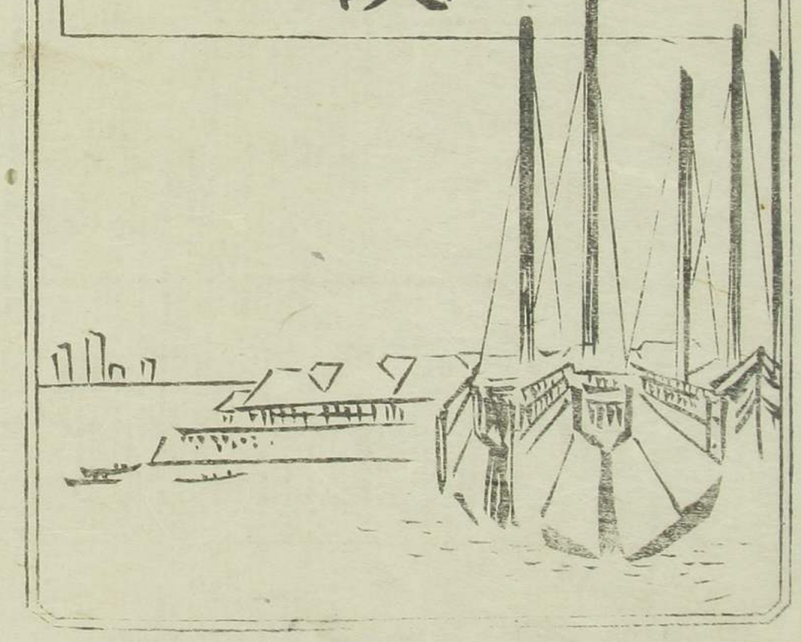
作者柳亭種彦著之図前

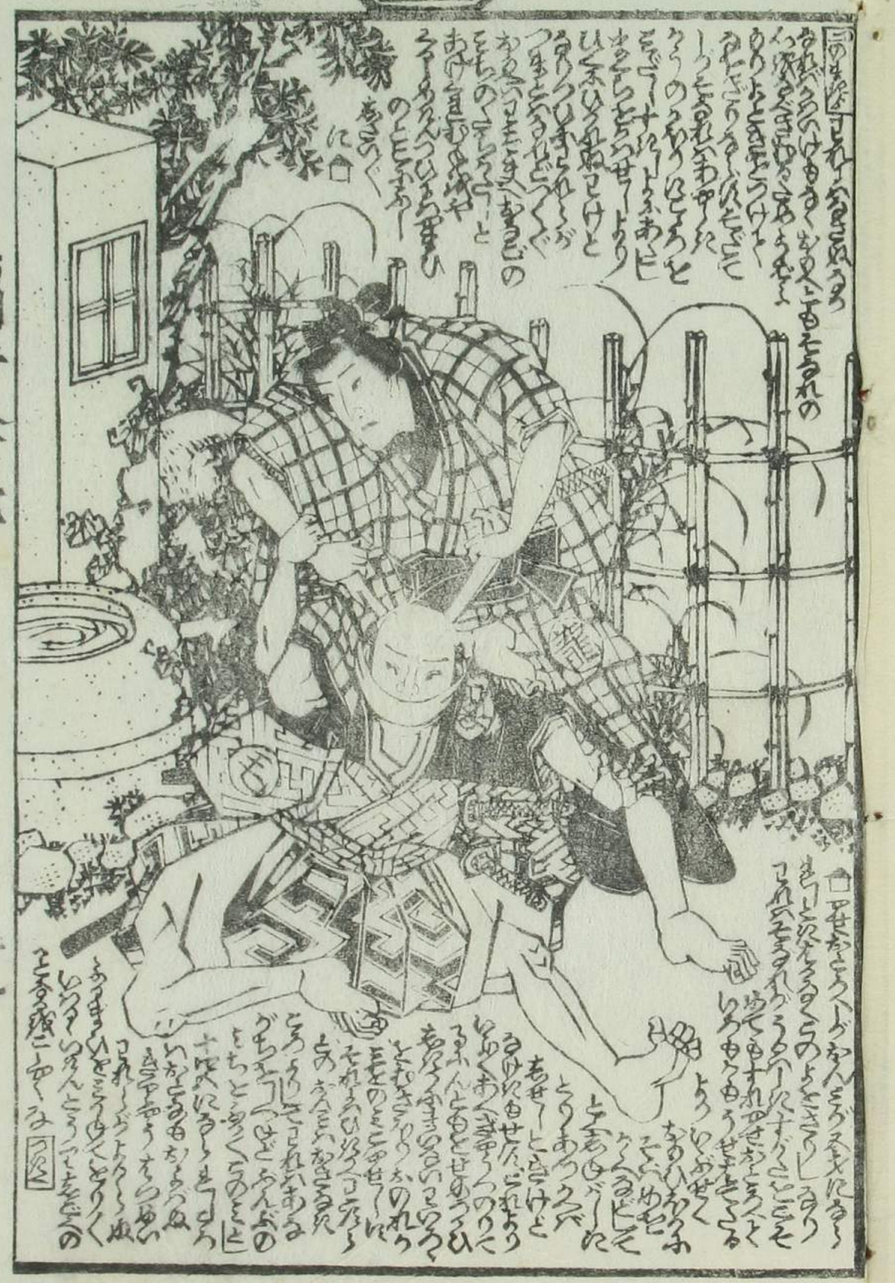
姫獨西国巡礼

十六編下

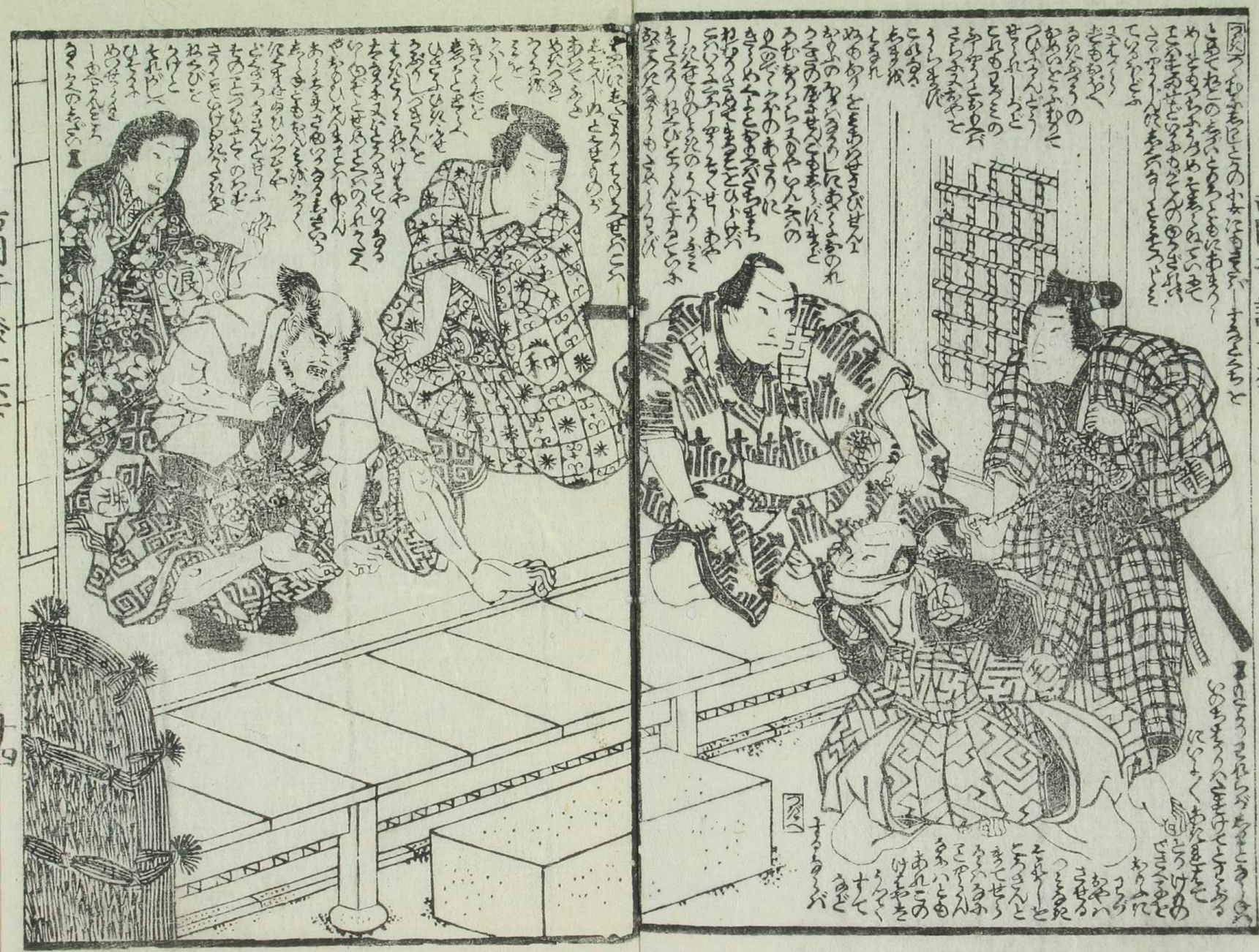
新増補西國奇談

十六編下





這重い和次郎が物語の狀を圖す



西国巡礼十六
十七

西国巡礼十六

口入だく

口
さんぜ

朝鮮牛肉丸 大包金二朱 中包一朱 小包百疋一朱

すべて一ひねとろろのひ
ねんせをまぜ物業
ゐるべきよりやの人
ゐるを用ひそよう

對州屋鋪 下谷さくらの
源寺氏製

爲永春水補綴 歌川國貞画

撰源實紫 十六編 初編 十七編 二編 十八編 三編 寿齋國貞画

娘庭訓金鶴 五編 同 作 大尾同 画

琴聲美人綠 十七編 東京山作 十八編 柳亭種彦作 十九編 歌川國貞画 方貞画

春色墨田川 初編 柳亭種彦作 五編 歌川國貞画

新增補西國奇談 十五編 爲永春水作 十六編 十七編 歌川國貞画

地本繪草紙團扇問屋 芝神明前三嶋町 佐野屋喜兵衛板

春水補綴

新增補

西國

さいこく

駿半梓元

きはんしげん

國貞畫

卆十六編